徳島県総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」会議録

Ⅰ　日　時　　平成２６年９月２４日（水）　１５：２６～１７：０３

Ⅱ　会　場　　県庁１０階　大会議室

Ⅲ　出席者

【部会委員】　１４名中　１０名出席

近藤宏章部会長，真田純子副部会長，伊藤晴夫委員，分木秀樹委員，内藤佐和子委員，山上敦子委員，岩野倫子委員，飛田久美子委員，唐渡義伯委員，村上幸二郎委員

【県】

政策創造部長，各部局政策調査幹，ＰＴメンバー　ほか

Ⅳ　議　題

１　新たな総合計画「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」の骨子案について

２　その他

《配付資料》

資料１　　新たな総合計画「長期ビジョン編」骨子案
資料２　　新たな総合計画「中期プラン編」骨子案
資料３　　県民等からの意見聴取結果
資料４　　7月23日開催「若者クリエイト部会」部会資料
参考資料１　新・総合計画策定スケジュール
参考資料２　人口推計資料

Ⅴ　会議録

１　新たな総合計画「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」の骨子案について

事務局より資料１～参考資料２に基づき説明があった後、意見交換が行われた。

（分木委員）

質問なんですが、中期プランの方は基本戦略として５つという形になっていますが、現行の基本目標は７つです。この５つに絞ったということはどうしてでしょうか。

（事務局）

新たな中期プランは今ご説明したように１０年程度先ということで、５本に整理

しているところです。委員のおっしゃったように現行計画では７本柱でございます。これは４年間の行動計画が７つであることにリンクして、現行中期プランにつきましても７本になっているところでございます。

今回中期プランは５本柱を置いておりますが、あくまでも中期プランでの体系ということで、このあと来年度に向けてお示しさせていただきます４年間の行動計画編につきましては、現行７本柱が中期プラン同様、たちまち５本柱になるかどうかは今後の議論検討を踏まえて、と考えております。

まず中期プランにつきましては、長期ビジョン３つの括りから５本に落とし込み作っているところでございます。４年間につきましては、今後の議論ということで、時期がくれば、当部会でもご説明したいと考えております。

（岩野委員）

事前にもご質問させていただいたのですが、今をときめくＶＳ東京について。あれは県の共通コンセプトということで、今回の総合計画と並ぶくらい重要ということで理解しております。それがなかなか一筋縄では、我々一般県民では咀嚼できづらく、ちょっと意味づけが難しくて。賛否両論が活発なことは良いことなんでしょうが、起こっているようです。

前回の時も、名は体を表すということで、「いけるよ！徳島・行動計画」が変わるのはすばらしいことですね、と申し上げたのですが。かと言って、ＶＳ東京を総合計画の名にしたら、とは言いませんが、ＶＳ東京がどういったもので、今後２０５０年のあるべき姿とか２０１０年の中期プランとどのようにリンクしていくのかを、教えて頂けたら一県民として分かりやすいのですが。

それはそれ、これはこれ、という感じではないと思っておりますので、この２つがどのように相まみえるのか、一緒になっていくのかを教えてください。

（事務局）

ＶＳ東京は県の共通コンセプトということで、これと計画との関係ということについてですが、まず、共通コンセプトでございますが、９月９日に発表させていただきまして、打ち出しているところです。

これにつきましては本県のあらゆる施策の共通のコンセプトということで、まず本年が本四高速の全国共通料金化をはじめ、さまざまな面でエポックメイクの年となっております。これを一過性のものとせず、本県の知名度の向上、イメージの定着といったものに繋げるために策定したものでございまして、それに当たって単にキャッチコピーということではなく、４６道府県の中で埋没しないように東京を対立軸として出すということで策定したところです。

当然、観光ですとか、ブランドの発信あるいは文化、企業の誘致を含め、さらに

そこから福祉、環境へと幅広い分野への本件の施策の方向性と位置づけているところです。そういう点で委員のおっしゃったように、当計画とも不可分のものであろうかと考えております。

ただ、ＶＳ東京につきましては、今のところ一つの目標として、東京オリンピックの２０２０年をイメージしております。今、ご説明させていただいたように長期ビジョンは２０５０年、中期プランにつきましては２０２５年の方向性となっているところです。

長期、中期につきましては多少の時間軸のずれもございます。ただ、当然２０２０年への施策の基本コンセプトということであり、今後お示しさせていただく当面４年間の行動計画編につきましては、ＶＳ東京をベースとした施策は盛り込まれていくのかな、と考えておりますので、総合計画の三層構造のうち、おそらく行動計画編につきましてはＶＳ東京を色濃く出した形になるのでは、と。まだ、そこまでの作業には至っておりませんが、そう考えております。この三層構造の計画全体をＶＳ東京で統一できるかというと、若干の時間のずれもあるのかな、と。

ただ、当面２０２０年に向けた施策の方向性としては、ＶＳ東京が背骨として入ってくるのかな、とも考えております。当総合計画全体にどのようにＶＳ東京を関連づけていくのか、これから議論をいただきながら我々も知恵を絞っていきたいと考えているところでございます。

（岩野委員）

ＶＳ東京が当然、この計画に入ってくるということで安心しました。

うまく言えませんが、今のままではＶＳ東京は、干しなまこの状態なんですよね。私たちは干しなまこをどのように食べたら良いのか分からないし、実際食べようと思ったら水に戻したり、かなり調理してから食べるんだろうなと。

そういうものよりは、高知家、うどん県みたいな、もらった瞬間からカット野菜のように食べ方が分かり、また、食べられる方が良いわけで。

うまく言えませんが、総合計画にも落とし込んで、出汁のようにじわっと効いていかないと。なかなかＶＳ東京自体が私自身咀嚼できず、栄養分にできないところでもあるのですが。さきほどのお話を聴いたところでは、当然この総合計画の短いタームではバックボーンとなって、やっていくということなので、是非ＶＳ東京とはなんぞや、ということも、この総合計画を作る時に、ついでに私たちにも教えていただけたらありがたいな、というイメージです。

（村上委員）

先ほどのＶＳ東京の話ともリンクしてくるのですが、中長期ビジョンということで少し大きい話をさせていただきます。ＶＳ東京の理念はその底流は私も全く同じ

考えを持っております。日本全国の都市をおしなべて見た時に、インフラ整備、人口、文化、マネー、全てにおいて、今東京が日本をけん引していることは明白な事実と言えます。

野球でいうと日本全国の４番バッターになって、主に経済面で世界の競争に立ち向かっていると言えます。しかし、日本が少子高齢化していき、労働力人口が減少していく中で、一体、今後東京を中心としたチームジャパンとしてはどうやって激化する世界の競争に立ち向かうのかということを考えてみたいと思います。

ここで、私が都市を野球以外によく例えるのが身体です。たとえば左脳が東京であり、右脳は大阪、さしずめ名古屋が心臓といったところでしょうか。また、その他の臓器が地方都市であるとします。私は各臓器がバラバラに働くのではなく、各臓器が一体となって効率的に機能することで身体全体が健全となり、はじめて国としてどこよりも強く、たくましいチームジャパンが成立するものと考えます。そこで一番大事と言える脳に相当する東京を他の臓器である地方都市がどのようにサポートしていくべきなのか、という観点から我々徳島県が日本の中でどうあるべきなのかを考える必要があると思います。

ただし、東京も脳だけでは生きていけない、自分ひとりだけでは生きていけないということは重々分かっていると思います。その意味でその他の臓器である地方都市とは決して主従関係、上下関係はなく、全く対等な協業関係であり円滑にお互いに機能し合う関係なのです。それではじめて健全な全身が形成され世界に立ち向かっていくパワーが生み出されていくわけです。

ですから、地方都市の衰退問題は、東京の衰退問題とイコールになると私は思っております。それではお互いの共存共栄を図っていくために、徳島と東京はそれぞれどのようなポジションであるべきか、徳島は東京の為にどのようなサポートをすべきか、そして同時に東京は徳島にどのようなサポートをすべきか。地域間の補完関係について精査して考えていく必要があるという強い願いを持っております。そして、人口減少、超高齢社会を目前にして地域間の効率的協業関係の構築は徳島ばかりか東京にとっても急務と考えます。

これらを踏まえると、本日の資料の中でも、見方がいろいろと変わってきます。非常にいろんなヒントがこの中に隠されております。例えばアンケートを東京の方からも取られている。徳島に残りたいか、という問いに３割くらいが残りたいと回答しています。徳島在住の方も３割くらいが残りたいと言っており、非常に興味深いものがあります。

また、５９ページあたりに、「『とくしま家』の輝かしい『２０２５年』像」というポンチ絵が描かれていますが、これは徳島に住んでいた人が東京に働きに出ていって、子どもを授かって帰郷し、美馬のサテライトオフィスで幸せに東京の会社と連携して暮らしており、これを一緒に定年退職した親と並べて描かれた想定のシナ

リオであり、これがまさに、考えさせられる核心を突いた資料なのかなとも思います。東京と徳島が補完し合いどうやって共存共栄して高め合っていけるのか、その基本的スタンスを今度は東京都民を主人公として作れば、ぼんやり見えてくるかもしれないなと感じました。

自分で作成しないで勝手なことを言っておりますが、東京都民から見て、地方がこうあったらいいのにというシナリオ、東京に住んでいて辛い思いをしている時に、徳島に行ってリフレッシュし、充電してまた東京で頑張るというポンチ絵があればおもしろいな、と思いました。

ＶＳ東京のコンセプトは必要だと思いますが、共存共栄が最終目的であって、決して敵対関係で勝ち負けを決めるなどということを目指すものではありません。東京にとっても地方の衰退は自分の衰退とイコールですので、こういう話については門戸は開いてくれると思います。

そして、もし東京に震災等があって、機能低下した場合には、もう一つの脳である大阪をいかにサポートしていくか、徳島が大阪から何をしてもらうか、その補完関係というところまで考え用意しておけば、今後、徳島の生きる道というのは自ずと拓かれて、徳島が日本の中でどういうポジショニングであるべきか、日本の中での徳島の健全な姿が見えてくるのではないかというのが私の持論です。みなさんの頭の片隅にでも置いていただければと思います。

（近藤部会長）

村上委員からの発言につきまして、事務局からは何かございませんか。また、委員の方々も先ほどのご意見に対して何かあればお願いします。

実は、先般、日商（日本商工会議所）の総合政策委員会 がありまして、エネルギー問題をはじめ、日本で今いろんな課題としております案件につきまして、月に一度ほど開かれております。

先般も１９日に開かれたのですが、少子対策関係のテーマでございまして、委員が２０名ほどいるのですが、東京から来られている委員と地方から来られている委員との意識差がございまして、東京の方は東京の方で少子問題を深刻に捉えておりまして、また、地方は地方で捉えております。

その中で、とある委員から、実は、東京は地方から見たら遠いんですよ、と。存在感が地方からみたら遠すぎる、と。ですから、地方が東京とどのように繋がっているのかな、と考えた時に、本当に遠い存在であるという意識しか持てない、という意見が出たのが、私にとって非常に印象的でした。

今、村上委員からもお話がありましたように、徳島はご承知のとおり関西広域連合に加盟しておりますが、道州制も一方では議論される。しかしながら、私がその委員会で申し上げたのは、北海道があり、東北では宮城の仙台が大都市ですが、東

京があり、名古屋があり、大阪があり、どうしても当てはめるなら、中国地方に広島、九州に福岡があり、それぞれの大都市において、その周辺の地方がどういう関わりを持つかということで、おそらくこの連携は始まってくるのではないか。

ただ、四国に４県あるからただちに道州制で四国州にしましょう、とそんな簡単な決め方をされても、多分ますます都会との距離が離れていくような気がしますよ、という話をしました。

何となく言い方は別ですが、今、村上委員が言いました、都会と地方がどのように関わっていくのか、お互いが補完関係でなければ、段々と遠のいていく、そういう関係を創ってはならないんじゃないかということについて、話をさせていただきました。

委員会ですから、一つ一つに答えを出していく時間はなく、それぞれの委員が意見を言って終わる形にはなるのですが、おそらく、来月あたりにはそれをまとめてくるのだろうと思っております。

それで、ＶＳ東京も、言葉としては私はおもしろいものだと思っております。もっとヤレヤレ、と。子どもも若者も全部東京に吸い寄せられ、言ってしまえば、有能な者ほど、東京に就職してしまう、と。何となく地方に若者が残っていかない。

こんな状況の中で、ここにもありますように東京に喧嘩を売るんじゃなくで、どう立ち向かっていくのかというテーマとしたら非常におもしろいな、と思いながら見たわけです。

（山上委員）

その辺について、医療・介護の立場から話したいと思います。

国土交通省が「国土のグランドデザイン２０５０」の中で、基本戦略の一つに、「田舎暮らしの促進による地方への人の流れの創出」を掲げており、シニア世代の元気なうちにおける田舎暮らしの促進を挙げております。

このあいだ、徳島新聞にも掲載されていましたが、徳島県でも移住促進策を強化するということで、介護サービスが都市部より充実している点をＰＲして、大都市に住む団塊世代などの高齢者などにＵターン、Ｉターンを呼びかけるということに予算を付けるということを報道で見ました。

これは、高齢者や団塊の世代の人たちの移住だけでなく、若い人たちの人口流出を防ぐためにも有効な取組かと思うのですが、大切なところは、やはりそのスピード感だと思います。

日本創成会議の増田座長が言っておりましたが、人口減対策は５年遅れると３００万人の人口が減るということであり、これは医療機関・介護施設があるという前提で話が進んでおります。

医療機関・介護事業所は、今人手不足と景気低迷、年金が少なくなってきている

などの先行きの不透明感のために、高齢者の受診抑制が進んでいる状況です。

そういうことによる患者減少で経営が厳しいところが現実に増えてきています。

医療・介護サービスは直接的な医療関係職員だけを雇用しているわけでなく、給食やリネンなどのいろんな関連産業と相まって地域の雇用を支えております。

そこで、アンケートの中でも、どんな職業に就きたいですか、という問いに、医療、介護、教育関係に就きたいと希望される方々が徳島では多いように見受けられます。

ですから、地域を支えている重要な産業のはずなのですが、今、実際、６０歳以上の方たちが働いてくれているおかげで何とか成り立っています。

現場では若い人が少なく本当に先行きが不安な状況です。医療・介護は労働集約型ですので、働き手がいなくなると、どんどんと収益は落ちていき、どんどん細っていきます。

人がいないとどうしようもなくて、今現在は全国的に見ても医療資源も介護資源も豊富という評価ではありますが、この先、どうなるかはどこまで持ちこたえていけるか、ということがあるので、持ちこたえられている内に、早く後押しして欲しいということです。

ともかく西日本では、他県においても同じようなことを考えていると思います。西日本における医療も介護も平均よりかは多い状態です。ですからできるだけ早いうちに、東京、埼玉、神奈川と仲良くして、あのあたりと連携して、老若男女を問わずこちらに来てもらえるような手を打って頂きたいと思います。本当にスピード感が大事だと思います。

それと、ずっと総合計画審議会も出席させていただいており、今頃聞くのも何ですが、総合計画というのは県でひとまとめなんでしょうか。医療圏を見た場合、各々の色が全く違っており、西部の医療圏は非常に厳しい状態です。

人口でいうところの第３段階に入ってきており、総人口も減り、高齢者も減るという、段階で分けたら、その最終段階にあります。そういうわけで、その西部と徳島藍住あたりではやはり状況が違うと思います。同じ一まとめの計画に書くので良いのかな、と思います。現状どうなのかを、医療サイドから見て、いまさらではありますが疑問に思ったので、質問させていただきました。

（事務局）

今、お示ししています現行の総合計画ですが、オール徳島一本ということです。当部会を経て、総合計画審議会で毎回ご審議頂いているところでございます。一方で、委員からお話のありました西部、南部、それぞれに総合県民局を設けておりますけれど、委員のおっしゃいますように人口減少は、西、南の方が圧倒的に、高齢化も含めて、早いスピードで本県の中でも進んでいる状態で、色合いは違うという

ことです。

そういうところで、西部地域、南部地域におきましては、正式名称はすぐに出てきませんが、地域版の総合計画を、やはり、これもそれぞれ、地域の有識者会議を設けましてご審議をいただき、地域版の総合計画、言い換えますと、地域の特性に応じた計画を策定し、地域の委員の方々にも審議もして頂き、評価も頂いており、毎年、ローリングしている状況となっております。そういうわけで、オール徳島の総合計画と地域版の総合計画という２つの形で構成して、計画を色分けしている次第でございます。

（真田副部会長）

前にも言ったと思うのですが、総合計画として仕方がないのかもしれないのですが、かなり箇条書きされており、それぞれの関係がよく分からないというのが、非常に気になりました。

特に私は土木系のところ、特に景観が専門なので、そこから言いますと、例えば、「災害に強くしなやかな県土が広がっている」ことと「豊かな自然と潤いあるふるさとの風景が守られている」というのがどういう風に両立されるのか、というところが非常に気になります。堤防を作れば海の景観は悪くなりますし、道路を強くすればいろんな擁壁が出てくることがあります。

ただ、かなりちゃんと検討に時間をかければ両立させることは可能なんです。

けれど、こういうふうに総合計画を作る時に箇条書きにして、それぞれの説明を普通にしてしまうだけでいつも終わらせてしまい、実際の事業をするときにはどうなのか、ということが全然示されていないのが問題ではないか、とも思います。

なので、箇条書きでどんどん細かくなっていくのはいいのですが、それをどうやってまとめるのか、という方針も総合計画の中に入れるべきではないか、と。

「強靭な県土を作る」、というのと同時に、「豊かな風景を守る」、というのを両立させる、と。そのためには検討にちゃんと時間をかけます、ということを書き込むべきかなと思います。

全部、この重点方針のところに各２ページとか見開きにページが付いて、今のところ終わりとなりそうなので。もうちょっと逆からいったときに、どういうふうに基のビジョンを実現させていくかについても書くべきなのかな、と思いました。

もう一つは、例えば「豊かな自然と潤いあるふるさとの風景が守られている」というのは、「環境先進とくしまの創造」のところに矢印が向いているのですが、「ふるさとの風景」というのは徳島の場合、ほとんどが農地ですよね。

その農村風景を守らなければふるさとの風景は守れないので、そういうことを考えると、「とくしまブランド」のところが非常に重要であったり、農業を継続していくという人をちゃんと守っていかないとふるさとの風景は到底守れないのでそう

いったところにも影響してきますし、その風景が守られているということが観光資源にもなりますので、それぞれの部署が自分達がやるところで、どこの部署と手を結ばなければならないのか、ということも総合計画の中に後ろの方でもよいので書いていればいいのかな、と思いました。

（事務局）

委員のおっしゃいますように、資料２についてのご発言だと思いますが、この矢印につきましては、イメージとして代表的な流れを示しておりまして、おっしゃられるように複数に矢印が向くべきものも多数あろうかと思います。

また、矢印が向く以上は相互にそれらをリンクさせて縦割りではなく実施まで取り組んでいくべきかと思いますので、それをどういうふうに表現できるのかということもございますけれども、そういったご意見も十分踏まえまして、今後素案に向けて検討して参りたいと考えております。

（飛田委員）

皆様のお話をうかがっていて、ちょっと極端な意見になるかもしれませんが、日本の人口がどんどん減少していく中で、徳島の人口を増やしていくということはパイを増やしていくということになると思います。先ほど共存共栄というお話も出ましたけれども、多分素手で殴り合ってでも勝ち取ってくるぐらいの競争がこれから始まってくるのかなと思います。

現に移住促進関係でも、やっぱり四国４県を見ても、徳島県はちょっと遅れ気味なのかな、と。高知県はかなり力を入れて政策をされているように思います。

そうした中で、このアンケートを見ますと、実際の高校生、大学生が徳島県に住みたくないと答えた割合が、高校生は約２０％、大学生は３０％くらい、それ以外の人は、分からないという回答も含め、住んでも良いと思っているということがうかがえると思います。

それで、徳島県に対する印象としては、田舎である、地味、不便であるというのがトップに上がってきているのですが、そういった今の子どもたちの思いと、この政策とに少し差があるのかなと思います。

実際にこれから徳島に住んでもいいかな、と思っている人たちにとってメリットのある施策でないと、実際に徳島出身の子であったとしても、将来徳島を選んでもらえない、と思います。

生活と直結してくると思いますので、将来就きたい職業を見ても、医療、介護、教育関係であり、徳島県においてできない職業ではない、というのが救いであると思います。そのため、こういう施設を充実させていくとか、若い子たちが就職できる機会を増やしていくところに力を入れていくと、自然と人口増加には転じなくて

も減少を防ぐということはできるのではないかと思います。

なので、この中の中期プランで一番不思議に思ったのが、「世界とつながる『創造のＴＯＫＵＳＨＩＭＡ』」です。確かにグローバル展開というのは必要になってくるとは思うのですが、何かそこよりも身近なところ、特に中期プランですのでもっと足下をしっかりと固めるような政策を行っていった方が良いのではないかと。

それと、私は冊子編集とか二次元の世界で仕事をしているので、このひらがなの「とくしま」と英文字の「ＴＯＫＵＳＨＩＭＡ」が、同じペーパーの中にあることに非常に違和感を覚えます。結局、どっちに向かってどう行きたいの、というのが、この一枚でも迷走しているのかなと、そういうふうに受け取りました。

（事務局）

委員のおっしゃるように、確かに長期では横文字のローマ字表記ですが、中期は平仮名で表記をしており、先ほど申し上げましたように、長期ビジョンは２０５０年ということで、目指すべき将来像という夢や希望といった部分もございまして、大きく世界へ、というキーワードで括っているところでございます。その意味からもＴＯＫＵＳＨＩＭＡを敢えてローマ字で表記しております。

一方、中期プランは向こう１０年程度ということで、こちらは地道にやっていく表記となっているところで、齟齬と見られたのかもしれませんが、我々の思いとしてはそういったところでございます。

委員のおっしゃったように、まずは足下から長期に向けてということもございまして、当然「世界とつながる『創造のＴＯＫＵＳＨＩＭＡ』」という中で、例えば、地域の強みを活かした新たな成長ビジネスを創っていくうえでは、当然ベクトルは世界を向くのですが、そこに到達するには、足下の若者の雇用の場ですとか、魅力ある地域づくりというのは、既に成されたものとして表記している思いがあり、決して足下を疎かにするという意味ではございません。

若者の流出を防ぐ、あるいは若者やご高齢の方を呼び込んでくる、といったことが人口減少対策として非常に有効であると考えておりますので、出さない、呼び込むといった中で何が必要なのか、となりますと地域の産業の雇用の場、これは医療・介護を含めてですが、そういった雇用の場があるとともに、魅力ある地域づくりが創出されていることが大事だと思っております。

そういった思いを込めた長期ビジョンだと思っておりますので、素案に向けて、もうちょっと深掘りといいますか、膨らませてまいりたいと考えております。

（唐渡委員）

徳島県における人口推計の資料を見ると、やはりどんどん減っていくと。本当に歯止めをかけないと、どうなるのか、自分の将来も心配してしまうような状態です。

そこで住みやすい徳島、移住も含め、外からどんどん人が入って来てもらえるような徳島県が手っ取り早い気がします。

といっても、先月の台風被害は全国的にもすごかったですが、徳島県内においても非常に被害を受けています。そういう被害があるというのは、本当に住みやすいのか、ちょっと疑問に思う部分もあるのですが。

また、農業分野について言わせてもらいますと、多大な被害を受け、これは自然災害ですので仕方がないと言えばそれまでですが、そういう被害が少なくなる徳島県を目指していただければと、思います。

また、若者としてアンケートにもある高校生、大学生、もしくは小学生、中学生にいたるまで、地域に根付いていって、僕もＵターンの部類で一度県外に行って帰って来てるんですけど、やっぱり、「徳島はいい県だよな」、と発信すべき立場であり、そういった人がどんどん増えていってもらいたいと思っております。

そして、一つは災害ですよね。災害に強い県土にしていってもらいたいのと、もう一つは、住みやすい徳島県にしていただきたい。長期ビジョンで書いてもらっているのですが、中期プランにおいても重点的にがんばっていっていただきたくお願いします。

（内藤委員）

私は長期ビジョンのところを話したいんですが。２０５０年ということで参考資料２のところで徳島県の人口推計がありますが、２０４０年までしかないので、おそらく２０５０年頃には県の人口は５０万人くらいで、高齢者の率も４５％くらいになっていると思います。

私は今３０歳なので、その頃には６５歳となり高齢者の仲間入りをするのですが、このグラフからいくと生産年齢人口が５０％を切って、子どもも１０％もいないくらいになるのかな、と思っています。

この長期ビジョンを見ると、基本的に「世界へ、世界に、世界と」、ということで、もちろん長期ビジョンなので理想型を描くのが当たり前なのでしょうが、すごく攻めているな、と私は感じました。

それで、やっぱり日本の財政面を見ても、既に借金が１０００兆円を超えていて、これからもどんどん増えていく中で、やっぱり財政面の心配もありますし、この２０５０年に徳島県の人口が５０万人になって高齢化率が４５％を超える中で、本当にこの、「世界、世界、世界」の攻めの姿勢で大丈夫なのかな、と。今３０歳の若輩者ですが、心配になりました。

なので５０万人の人口で、しかも半分高齢者を抱えた中で、本当に攻めの姿勢でいけるのかな、と。多分、財源などもここには資料がなく、徳島県の財政がどれくらいになるのか正確には言えませんが、どう考えても税収は下がってきますし、日

本の国としても力が落ちてきますので。

もちろん、この「災害に強くしなやかな県土が広がっている」とか、こういうふうになってもらいたいのですが、財源面で、今のものをメンテナンスしていくだけでいっぱいいっぱいになるんじゃないか、とか。そういうことも含めて、もう少し守りの姿勢もあってもいいのかな、と個人的には感じました。以上です。

（近藤部会長）

県の長期ビジョンでは比較的攻めの戦略がおもてに出ているのですが、内藤委員からは少し守りの部分も重視してはどうか、というご意見でした。

（事務局）

人口問題では委員のおっしゃったように、２０５０年の本県の推計値はございませんが、おそらく５０万人を若干割り込むくらいなのかな、と。

というわけで、このままいけば、委員のおっしゃっるように税収をはじめ財源確保が非常に不安定になることが危惧されます。ただ、あくまでも推計ということで、現在、日本中が人口減少対策ということで動いており、国も地方創生ということで、昨日も政務官が来られていましたけれども、地方への対策ということを全面的に打ち出すということで、本県といたしましても、今いろいろな形で検討しているところでございます。

まず、人口減少の流れ、これは先ほどの移住の話をはじめ、少子化の話も含めてですけど、これに歯止めをかけるということを目指しておるところでございます。ですから、まず長期ビジョンのバックボーンにはそうした思いも流れており、今、柱ごとに小分けしているので見えない部分もあり、大きくそういったことが必要なのかな、と考えております。

また、素案でそういう形も踏まえてもう少し盛り込んでいきたいと考えております。財政面につきましても十分、もちろん財政の裏付けのある２０５０年というのは当然描けないわけですが、そういう守りの部分もしっかり考えたうえで、と思っておりますのでよろしくお願いします。

（伊藤委員）

実務面から三点ほど質問をさせていただきたいと思います。

まず一点目は先ほど分木委員からもお話がありましたが、今回、基本戦略が５項目になっているということで、前回までは７項目でございました。この後ろに行動計画が付いてくるわけですが、今の行動計画は微細に渡り示されており、この一冊があれば、どういう目標を持ってその施策をやっているのか、ということが分かるくらい、細かく作られております。

そういった意味では今回この５項目になった時に、今の７項目にかかるものが綺

麗に整理され、できましたら、この５項目の中に全部入れていただきたいな、と思っております。

それと、二点目は、これもよく言われているのですが、長期、中期と言いますと、どうしてもイメージが先行いたします。イメージが先行するということは、いわゆる横文字、カタカナがよく出てきまして、特に高齢者の方々にとっては分かりにくいというご批判もいただいていたところでございます。

したがいまして、言葉の使い方、特に、この資料にもございますが、例えば「しなやかな県土」と言いますとイメージでは分かるのですが、言葉の使い方として分かりにくい方もいるのではないかな、と。

また、将来像に対する主な意見の中にもありますが、かなり横文字の部分が出てきております。私も分かりにくかった部分として、この「４Ｋ、８Ｋの普及促進」、おそらく解像度のことだと思いますが、このへんもそのまま書かれたら分からないと思います。ですので、そのあたりは慎重に書いていただきたいな、と思います。

最後に、事前に資料をいただきまして、目を通させて頂き、高校生と大学生、それぞれにアンケートを取られています。例えば資料４－２でも、徳島のイメージとして、わりあい良いイメージをお持ちの方がいるな、とたいへん興味深く見させていただきました。

その中で、例えば、調査数１，４３６人という数字が出てきておりますが、これは回答数なのでしょうか、もしくは依頼数なのか、ロットとしてその信憑性は分子と分母にかかってくると思うのですが、いかがでしょうか。

（事務局）

３つほどご質問をいただいております。最後の方から回答させていただきます。高校生アンケートの調査数として１，４３６人となっておりますが、これは回答があった数ということでございます。

高校生アンケートにつきましては、教育委員会の方に協力をいただきまして、全高校からの悉皆調査はさすがにボリューム的にできないということもございまして、本県の人口規模から言いますと、１，２００人から１，３００人のサンプル数があれば、ある程度統計的には間違ってないのかな、という助言もありましたので、このぐらいの数字で、まず地域別、男女生徒別、普通科実業科別などのバランスも考えて、県の教育委員会においてサンプル数を抽出していただき、各校にお願いしていたもののうち、戻ってきた回答数が１，４３６人ということでございます。

（伊藤委員）

無作為にランダムに抽出したものですか。

（事務局）

ランダムといいますか、無作為に地域バランスを考えて、学年とか男女が偏らないようにバランス良くサンプルを抜き出して各校にお願いさせていただいたものでございます。

あと、５項目になることで漏れはないか、ということでございますが、各部局の施策を網羅的に行う総合計画ですので、割りは５つになりますが、そこで漏れる分野は無いようにいたしますし、そうはならない、ということでご理解いただけたらと思います。

３つめのご質問ですが、横文字とか難しい言葉の表記についてですが、そこは十分慎重にしたいと考えております。今の計画でも冊子において、末尾に用語集を付けておりますので、おそらく次回も少し分かりにくい言葉につきましては、そういった形で補足するようになるかと思っておりますので。

また、本文につきましてもできるだけ横文字に走らないように十分に自覚したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

（岩野委員）

アンケートが出ましたので、これについて。

以前、違う団体での取りまとめでも申し上げたのですが。せっかくアンケートをしていただいたのに、先ほどの山上委員と同じく、地域について、北部、西部など全てをひとまとまりの徳島県全体としてよろしいんでしょうか、ということなのですが。

男女別とか、１年、２年、３年の学年別とか、県内、県外出身者別であるとか、例えば実業高校に行っている子、進学校に行っている子とかによって、全く違う結果になっているはずなんですよね。

それを、せーので、ガラガラポンで一つの指標としてアンケートをご報告いただいても、すごく残念でおもしろくなくて。もっと深掘りしてそのアンケートだけでレポートが一本書けそうな興味深い結果が出ていると思います。

ですから、せっかくしていただいたアンケートだったら、もうちょっと調理方法を工夫して良いものにしないともったいないな、と思いました。あとは資料１にもある「主な意見」として総括して書いていただいているのですが、例えばこの事例においても、どこそこの地域に住んでいて、男女別はどうで、何歳の方であるとか、どういう職業の方であるとか、によっても全然捉まえ方が違ってくると思います。

せっかく材料があるのですから、もっと論理的にしっかりと分析できるような仕組みにしていただけると、前のめりになるくらいの資料になるのですが。

素材が活かされていないので残念ですし、今のままでしたら、春からず一っとやってこられて、ネタは数多く収集したが、結果として今回のまとめでは、長期、中期では論理的に、「こうだからこう」、というのがない。いきなり「こうです」しか

なくて、だったら、この素材は必要だったのか、というイメージです。

なので、せっかく汗をかいて収集した資料であり、分析して論理的にこの結論を導き出したのでしょうから、「では、高所から意見を」と言われる人のためにも、分かりやすい資料にしていただけると、もうちょっと分析もできるのかな、と感じました。

私だけの感触かもしれませんが、今日は全体のできあがり度が何十％くらいの段階で、第一回目の会をして、いったい今日は何を決めたら良いのか分かりませんでした。過去形ですけれど。

では、いったいこれからどうしていくのか、とか、半年間やってこられたご苦労が、私には十分理解できなかったというのが残念だなと、勝手に総括させていただきますが。

（近藤部会長）

どうでしょうか、事務局。反省すべき点などございませんでしょうか。

（事務局）

アンケートにつきましては委員のおっしゃるような分析ができれば、ということもあるのですが、作業的なこともありましてできていない状況です。

今後、例えばテーマに絞って男女に分けてみるなど、そういった工夫が必要であれば考える余地はあるのかな、と思っており、引き続き検討したいと考えております。

（岩野委員）

必ず必要だと思います。必要でないという根拠を教えていただきたいですね。

（事務局）

分析が必要でないとは思っておりませんが、１，４００人のサンプルを一問一問分けていくというのがなかなか難しかったということでトータルで整理しているところでございます。

（岩野委員）

まさにそれが、今、ビッグデータ等と言われているものですよね。それを吟味して加工できるノウハウのある人がいて、はじめてこのようなアンケートが活きてくるんですよね。そうですよね。

（事務局）

そうではあるのですが、今回のアンケートの目的といたしまして、ひとつは大き

なトレンドを掴みたいというところがありましたので、例えば定住志向がどれくらいなのかというところ。結局、５割は超えていたところであり、あと、医療・介護への就職希望でありますとか、そういったことも分かりますので、掘り下げる必要がないとは申しませんが、トータルでは全くトレンドが掴めないわけではないのかな、と考えておりますのでご理解いただければと思います。

（岩野委員）

私は大きなトレンドとしては、進学校に行っているような方は、そのほとんどが県外に行って給料の高い仕事に就きたいと思っている。実業高校とか専門学校に行っている方は、そのために実業高校とか専門学校に行っているわけですから、当然徳島で時代に合ったお仕事をきっちりやられる。そこにアンケートでも多かった医療・介護は当然含まれているわけですし。そういった全く方向性の違う方々だと思うんですよね。

では、それを一つにして方向性が掴めた、というのは、本当にそうかな、というのが素朴な疑問です。男女によっても全く考え方が違うと思いますし。例えば、長男、二男によっても違うと思いますし。それを分析して、そこに散りばめられているエッセンスを抽出していくことがアンケートの醍醐味なんだと思います。それをしていただきたいと思います。一応、経済研究所という組織に所属する者としての意見ではありますが。

（近藤部会長）

せっかくアンケートでデータを取るのですから、できるだけ細分化して、細かい答えが得られるような取り方というのは必要なのかなと思います。例えば、県外に行きたいのか、そうでないのか。

一人っ子のところと三人子どもがいるところでは、当然答えが違ってくると思いますし、せっかく取るのであれば、できるだけ答えの得られやすいデータを取って欲しいというのが岩野委員の意見であろうと思います。

一つそういうふうな方向で心掛けてお願いしたいと思います。

他にご意見、ございませんでしょうか。

（村上委員）

このような人口推計データを見る度に、人口がどんどん減るし、高齢化は進むし、と暗い気持ちになり、どうにかして、これを逆にすることはできないのかと考えてしまいます。先ほども全人口の半分が高齢者で若者が残り半分しかいない、そんな状況で積極的なことができるのか、というお話がありました。

しかし、例えば少ない労働力人口であっても、経験のある高齢者が顧問のような、知恵袋のような存在になって労働力人口一人ひとりをバックアップする体制ができ

るのであれば、高齢者の多いもの勝ちなのですよね。

そうなれば、他の国は真似ができません。そういうことをやりたい、経験のある、知識のある高齢者の方々ばかりではないかもしれませんが、できれば一人について３人、４人と付いてもらって知恵や技術、人とのパイプをいただき、自分のやりたい夢をより早い時間でスピーディに実現する。このような関係ができれば若い人にとっても１人が数人力となって非常に楽しいのにと。

ただしその場合、いつも私はこれを言って怒られるのですが、高齢者の方は若い方に、自分の人生の自慢を語らない、時間を取らせない、例えば、極力一緒にお酒を飲みに行こうと誘わないなどというようなスタンスで接してほしいのです。若者のサポートはするが高齢者が若者からサポートされる時間を取らず、長い目で見ていただくことで、双方が自立した関係になり、お互いを高め合うことにもなるのではないかと思っています。もちろん、そうしていただく高齢者の方々には敬意の念を持って接することが前提です。この様な取り組みができれば、それは徳島にとって大きなひとつの武器になると思います。

参考までに、余談でしたが、以上です。

（近藤部会長）

今、村上委員からお話がありましたベテランの力を再活用するという、そういう社会づくりも今必要であろうと思います。ただ、若者を酒に誘わない、というのも何か寂しい気もしますが、そういうのも必要なのかな、とも思います。

たいへんいろいろとご意見をいただいたのですが、予定の時間がまいりましたので、本日おっしゃっていただいた以上にご意見がございます方は、事務局の方にメールもしくは文書でお送りいただきましたら、改めまして検討させていただきたいと思います。

これで本日の議事を終わります。

２　事務局説明

（事務局）

本日の会議録の公表につきましては、事務局で取りまとめた上、各委員の皆様にご確認いただき、ご発言者のお名前を入れて、公開したいと考えておりますので、よろしくお願いします

（以上）